平成28年度　沖縄県立総合教育センター特別支援教育班　前期長期研修員　第1回検証授業

「生活単元学習」学習指導案

日　　時：平成28年6月１日（水）

　　２校時（9:40～10:25）

場　　所：中学部1年

対象児童：中部１年

授 業 者：漢那武司（ＣＴ）他１名

指導主事：川満　恵

Ⅰ　研究テーマ　　特別支援学校における社会生活能力を高める工夫

-生活単元学習における「ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム」の活用-

Ⅱ　研究仮説

　１　授業で使用したイラストやカードなどを、掲示したり本授業以外でも活用することにより、生徒が授業内容をより深く理解することができるであろう。

２**「個別の教育支援計画」と「Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」を基に生徒の実態を把握し、**生徒の実態に応じて内容を工夫した「ＳＥ**Ｌ－８Ｓ学習プログラム**」を取り入れた授業を定期的に行うことにより、**「社会生活能力」を高めることができるのであろう。**

Ⅲ　研究テーマとの関わり

本校中学部においては、**社会生活能力を高めることを目的として「**生活単元学習**」**の指導の重点の１つに「多種多様な経験を通して、社会生活に適応できる基本的な知識と技能及び態度を身につける」と置き、「生活単元学習」を各教科や自立活動、行事等と関連づけ、全職員で共通理解のもと指導の充実を図っている。課題としては、生徒の実態や発達段階に応じた社会生活能力を段階的に身につけることがあげられる。

**社会的能力を効果的に育成できる学習プログラムに、小泉（2011）が開発した｢ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム｣がある。｢ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム｣は、社会的能力を日本の教育事情に合わせて効果的に育成できるように工夫した学習プログラムで、社会的能力を①自己への気づき②他者への気づき③自己のコントロール④対人関係⑤責任ある意思決定⑥生活上の問題防止のスキル⑦人生の重要事態に対処する能力⑧積極的・貢献的な奉仕活動という８つに分類し、それぞれのプログラムに沿って学習し、社会的能力を向上させる学習プログラムである。**

**そこで、**「個別の教育支援計画」と**「**Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」を参考にして生徒の実態把握を行い、**段階的に「ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム」を取り入れた**授業を行うことによって、生徒の**「社会生活能力」を高めることができるのではないかと考え**、このテーマを設定した。

以上のことから、この検証授業では**本校中学部１年１組（男子３名、女子３名、計６名の一般学級）の生徒を対象に、「ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラム」**の①自己への気づき、②他者への気づき、④対人関係の社会的能力を高めるための学習活動として「いろいろな気持ち」の学習を基に「個別の教育支援計画」・**「**Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」も活用しながら本時の目標を設定し、生徒の自己・他者の感情を理解する力が向上するかを検証する。

（１）生徒観

対象生徒は、中学部１年の一般学級である。**「**Ｓ－Ｍ社会生活能力検査」において、ＢとＤは共にＳＡ（社会生活年齢）のＣ（意志交換）、Ｓ（社会参加）において他の生徒より高い数値を示しており、学校生活においても２名が中心となって話がはずんだり、諸活動が行われる場面が多い。２名とも個別の教育支援計画においての長期目標で｢学年、学部のリーダーとしての自主的な活動ができるようにする。｣とされている。ＣとＥは共にＬ（移動）、Ｃ（意志交換）の数値が低い。個別の教育支援計画支援項目として、｢自分の気持ちや要求を言葉や文章で伝えることができるようにする。｣とされている。ＡはＳＤ（自己統制）で低い数値が示されており、個別の教育支援計画においても自己の要求が通らなかった場合の対応の仕方などが課題とされている。ＦはＬ（移動）において数値が低く、集団生活において必要なルールを理解することが個別の教育支援計画においての長期目標である。また、悪天候や体調不良のときに学校を休む日があるので、家庭と連携をとって、安定した気持ちで活動できるようにする事を支援の方法としている。

（２）題材観

　 本題材は、ＳＥＬ－８Ｓ学習プログラムの｢８つの社会的適応能力｣の中の｢自己への気づき｣｢他者への気づき｣の育成を図る内容を取り入れている。｢自己への気づき｣｢他者への気づき｣とは自己や他者の感情や情動を理解し、それぞれの立場になって考えることができることで、周りの人と良好な関係をもつことができるとある（小泉令三）。

対象となる中学部1年の**Ｓ－Ｍ社会生活能力検査の**結果をみると、｢身辺自立｣や｢作業｣など６領域のうち、意志交換（Ｃ）に関して、半数の生徒が他の領域と比較して低い値を示した。また、個別の教育支援計画において、全員が目標や保護者の要望等で｢人前で発表できるようにする｣、｢コミュニケーション能力を高める｣とあり、今回の題材である｢自己・他者の気持ち｣の授業は非常に効果的であると考える。

授業は、まずイラストを使用して「驚き」「喜び」「悲しみ」「怒り」の４つの感情を説明し、それぞれ感情を表現する言葉があることを教える。そして、自己がその状況になったときに、どういった言葉が出てくるかを考えさせる。これにより、自己の感情の状態を客観的に見る力を育てる（自己理解）。

次に他者のいろいろな表情を見せ、その人がどのような感情でいるかを考えさせる。それにより相手の立場になって考える力を育てる（他者理解）。

最後に、4つの感情の表情を、顔の輪郭だけのイラストに顔のパーツを組み合わせて作成し、発表する。そのときの感情を自ら考えて表現、説明することによって、より、具体的に自己・他者の感情に気づく力を育てる。

また、この単元の授業を行い、自己・他者の感情を理解、表現することによって、より発展的にに次回予定の自己の気持ちや感情を相手に｢伝える｣授業へと展開していけるのではないかと考える。

（３）指導観

対象となるクラスは友達や先生とおしゃべりすることは上手だが、人前で発表することが苦手な生徒が多い。そこで、前回の授業で取り入れた自己紹介の表を使って再確認を行いながら、生徒が発表しやすいように支援する。

また、個別の教育支援計画において、｢日程や時間を確認して行動できるようにする｣を目標とした生徒が多くいるので、本時の学習内容を掲示し、確認を行う。また、開始・終了時間がわかりやすいように時計に目印をつけて授業を行い、時間を意識づけて行う。

読み書きが得意な生徒、ひらがなが書ける生徒、ひらがなを模写して書くことができる生徒がいるので、生徒の実態に応じ、授業の資料などにルビやイラストを使用し、生徒が理解しやすいように工夫する。また、授業の流れにいろいろな変化をつけ、生徒が授業に飽きずに興味関心を持って最後まで授業に参加できるように工夫する。

Ⅳ　題材名　　｢いろいろな気持ち｣

Ⅴ　題材の目標

（１）４つの感情｢驚き」「喜び」「悲しみ」「怒り｣にはその感情を表す言葉があることを理解する。

（２）場面を設定し、自己や他者がどんな気持ちになるか考え、理解することができる。

（３）４つの感情には、表情に特徴があることを理解する。

（４）自己や他者の表情を見て、そのときの感情を読み取ることができるようにする。

（５）自己の意見や感想をみんなの前で発表する事ができる。

Ⅵ　指導計画　　総授業時数５時間（週１回）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 題　材 | 内　容 |
| １ | 自己紹介 | 「自己紹介」「チャイムの合図」｢正座の姿勢・聞く態度｣  「始めます」「終わります」 |
| ２ | 【本時】  いろいろな気持ち | いろんな気持ち「表情」の違い（喜ぶ・怒る・悲しい・驚く）を学習する（自分の気持ち・相手の気持ち　感情の気づき） |
| ３ | 自分の気持ち・相手の気持ち | 自分の気持ちを伝える。｢私は○○の気持ちです。｣  （喜ぶ・怒る・悲しい・驚く）  こころの信号機の色（青・黄・赤） |
| ４ | みんなで力を合わせて  （関係作り） | 関係開始｢誰か手伝って｣→協力関係｢手伝ってあげる｣の会話  関係開始｢仲間に入れて｣→協力関係｢どうぞ｣の会話 |
| ５ | ストレスマネジメント | ｢私は、○○の気持ちです。｣こころの信号機の色（青・黄・赤）  青は｢○｣…よい状態。黄は ｢注意｣…落ち着いて。  赤は｢止まれ｣…（深呼吸）青になるのを待とう  ｢赤｣→｢青｣の変わる方法を探そう |

　Ⅶ　本時の指導　（２／５時間）

（１）本時の目標

いろいろな感情を表す言葉とそのときの表情・仕草などを学習することにより、感情に関する理解を深め、自己や他者の感情を理解できるようにする。

（２）生徒の実態

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の実態と個別目標及び評価  評価　　できた…◎　　ややできた…○　　改善が必要…△ | | |
| 氏名 | 本時に関する生徒の実態 | 本時の目標 | 評価 |
| Ａ | ・ひらがなの文章を見ながら書いたり発表したりすることができる。  ・質問に対して簡単な文章で返事ができる。 | ・教師と一緒に４つの表情に合った気持ちの言葉を選んで書くとこができる。  ・教師と一緒に４つの表情、言葉を学習し、簡単な文章で発表することができる。 |  |
| Ｂ | ・ひらがなや漢字（漢字検定１０級）  を書くことができる。  ・自分の意見や感想を伝えることができる。 | ・４つの表情に合った気持ちの言葉を自分で考えて書くとこができる。  ・４つの表情を理解し、姿勢、言葉遣いに気をつけながら発表することができる。 |  |
| Ｃ | ・ひらがな、カタカナの読み書きができる。  ・文章や自己の感想を発表する事ができる。 | ・教師と一緒に４つの表情に合った気持ちの言葉を選んで書くとこができる。  ・自己の感想や意見を相手に伝わりやすいように発表することができる。 |  |
| Ｄ | ・ひらがなや漢字（漢字検定１０級）  を書くことができる。  ・人前に出て発表することができる。 | ・４つの表情に合った気持ちの言葉を自分で考えて書くとこができる。  ・自分の話したい内容をまとめ、姿勢、言葉遣いに気をつけながら発表することができる。 |  |
| Ｅ | ・見本を見ながらひらがなを書くことができる。  ・人前で簡単な文章で発表することができる。  ・身辺自立（ボタン、ベルト）の開け閉めを練習中。 | ・教師と一緒にお手本を見ながら丁寧にひらがなで書くとこができる。  ・口を大きく開けて、はっきりとした言葉で発表ができる。  ・表情作りで、顔のパーツをきちんと置くことができる。 |  |
| Ｆ | ・ひらがなのなぞり書きができる。  ・人見知りで、恥ずかしがって発表するときに声が小さくなったり、言葉が不明瞭になる場合がある。 | ・教師と一緒に４つの表情に合った気持ちの言葉を選んでひらがなで書くとこができる。  ・意見や感想をみんなの前ではっきりした言葉で発表することができる。 |  |

（３）　教室配置図

　　　　　　　　　　　　　　　　　黒板（掲示物）

　　　　　　　　　　　テレビ　　パソコン　　　Ｔ１　　　　　　　　　　　　　ホワイトボード

　（プレゼンテーション）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（生徒の発表記入）

Ａ

Ｂ

Ｃ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Ｔ２

Ｆ

Ｅ

Ｄ

（４）　本時の展開（２／５時間）

ＳＥＬ－８Ｓ（自己への気づき・他者への気づき・対人関係）学習内容「自己・他者への気づき」

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 個別の課題・支援 | | | | | | 備考 |
| Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | Ｆ |
| 導入  9：40  9：50  (10分） | ・前回の復習  アラームが鳴ったときの約束を再確認する。(始まり）(終わり）  ・自己紹介  先生の名前を覚えているか確認(自己紹介)  正・不正解した時の気持ち（感情）を伝える。  正解→うれしい  不正解→かなしい  ・感情を説明する｢驚き｣｢喜び｣｢悲しみ｣｢怒り｣  ・どんな気持ちですか？プレゼンテーション①  ４つの場面を見せて、その時の「気持ち」と｢セリフ｣を考える  ・相手の表情を考える。  この顔はどんな顔？  プレゼンテーション②  （４つの表情の写真）  ｢驚く｣｢喜ぶ｣｢悲しむ｣｢怒る｣　生徒に答えてもらい、Ｔ２に画面と同じ顔をしてもらい、その時の気持ちを発表してもらう | ・前回の内容を再確認する。  「今の音って何だった？」  ｢正座｣｢挨拶｣の確認をする  ２校時目は9：40～10：25です。（時計に矢印を貼る）  ・生徒に覚えているか質問する。  ｢先生の名前は○○です。好きな○○は、○○です。｣  正　解→　喜ぶ「うれしい」  不正解→悲しむ「かなしい」  表情を見せながら先生の感  情を伝える。  ・｢驚く｣｢嬉しい｣｢悲しい｣｢怒る｣を説明する。  ・場面設定の説明を入れる  ｢どんな気持ちになる？｣  ｢自分だったら何て思う？」   1. 自分で考えて記入する 2. 選択肢から記入する   ・｢どんな気持ちですか？｣  ｢Ｔ２先生、どんな気持ちですか？｣→「私は今○○の気持ちです」  ｢先生の目・眉・口の形は？｣  ｢写真ではわからないけど、他に変わるところってある？（声・顔色など）｣ | 時計とアラームの音に注目させる。  ｢正座｣をする時、脚を閉じる。手は膝、口は閉じて先生の目を見る。  ｢始まり｣｢終わり｣の時間を時計で確認する。｢何時から何時まで？｣  先生の話に注目するように声かけする。  先生の表情に注目させる  テレビの画面に注目させる  ４つのセリフを考えて記入する。記入が難しい生徒は、語群から選んで記入、又は○で囲む。（語群以外の言葉を書いても良い。）   1. 自分で考えて記入する　②選択肢から選び記入する。   　　　　　最初は①をさせて、難しそうだったら②をさせる  先生の顔の特徴を気づいたところを発表してもらう。（Ｔ１が指名する）  ｢目はどうなっている？｣｢眉は？｣｢口は？｣（発表したら拍手する。）  手を挙げて発表させる。答えた生徒には｢どうしてそう思ったの？｣と質問する。（発表したら拍手する。） | 姿勢を正しくするように声かけする。 | 前回休んでいたので、Ｔ２が側で補足する。 | 手を挙げてから発表する。 | 姿勢を正しくするように声かけする。 | 姿勢を正しくするように声かけする。 | アラーム  矢印  (始め･終わり)  (掲示物)  自己紹介  (掲示物)  嬉しい  悲しい  (感情カード)  ４種類  プレゼン①  場面設定  プレゼン②  先生の顔 |
| 展開  9：50  10：15  ( 25分) | ・いろいろな顔を作ってみよう  ｢驚き｣｢喜び｣｢悲しみ」｢怒り」「その他」福笑いを使っていろいろな表情を作ってみる。  自分で想像して、目・眉・口を選ばせる。いろいろな感情によって表情のどこが変化するかを意識する。  ・できた顔を発表する  ・先生の顔と自分の顔を比べてみる。  ・自分で作った顔を表現してみる | ・生徒の作った顔の表情を真似てみせる。  完成した生徒の顔をみんなに見せる。（上手だね）  ・先生の作成した福笑いを見せる(正・不正解はないが、表情には共通して変化するパーツがあることを説明する)  ・４つの感情の時、具体的に  どのパーツがどのようにが変  化するかを確認し合う。  (目・眉・鼻・口・その他)  ※もし、授業の中で、生徒から他の感情を表す言葉（恥ずかしいなど）が出たら、ホワイトボードに書き残す。  （すごいね！） | 他の生徒が発表している際の聞く態度（前時で指導）を声かけで意識させる。  ｢怒っている時の目はどうなっているのかな？｣などと、全体に聞こえるようにアドバイスを伝える。  自分の考えでパーツを置かせ、後で先生の作った顔と比較させる。  声かけをしながら一緒に顔のパーツを置く。  自分で作った福笑いを見ながら実際に自分でその表情をしてみる。  本人がパーツを替えたいと感じた場合には、替えても良い。 |  |  |  | 声かけをしながら一緒に顔のパーツを置く。 |  | プリント  (２種類）  プレゼンテーション②  ・ふっくん  (福笑い) |
| まとめ  10：15  10：25  (10分) | ・今日の言葉  「驚き」「喜び」  「悲しみ」「怒り」の表情の特徴とそのときの自分・相手の気持ちを考える。  本時の資料を１週間廊下に掲示しておく。次回、  振り返りで使用する。（学習内容の定着化）  アラーム（５分前）  ・次回の予告  ・終わりの挨拶 | ・自己の顔（鏡）や他者の顔を見てどんな気持ちなのか考えてみましょう。  ・自分の気持ちと相手の気持ちを考えてみましょう。  ・あと５分で授業が終わることの確認（時計の確認）  ・｢気持ちを伝えよう｣  ・｢正座｣｢礼｣の姿勢の確認 | ｢正座｣をする時、脚を閉じる。手は膝、口は閉じて先生の目を見る。  ｢終わり｣の時間を時計で確認する。｢あと何分で終わり？｣  怒ったとき…(自分)怒ったぞ！許さない!　　(他者)怒っている。こわいなぁ  驚いたとき…(自分)びっくりした！　 　(他者)どうして驚いているのかな？  どうして驚いているのかな？  嬉しいとき…(自分)嬉しいな!　　　　 　 　(他者)何か良いことあったのかな？  悲しいとき…(自分)悲しいな。　　　　　　(他者)大丈夫かな？心配だな |  | １ |  |  |  | ・４つの表情の顔を掲示する  アラーム |

（５）授業者の評価

適切…◎　やや適切…○　改善が必要…△

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目 | 評価 | 備考 |
| 1. 題材と研究テーマとの関わりがみられたか |  |  |
| 1. 題材の目標、本時の目標は適切であったか |  |  |
| 1. 個人の目標は適切であったか |  |  |
| 1. 授業の展開は適切であったか |  |  |
| 1. 指導形態（集団学習）は適切であったか |  |  |
| 1. 生徒への支援は適切であったか（タイミング・声かけ・動き等） |  |  |
| 1. 場の設定は適切であったか |  |  |
| 1. 教材・教具は適切であったか |  |  |
| 1. 時間の配分は適切であったか |  |  |
| 1. ＴＴの連携は適切であったか |  |  |
| 個人目標の達成状況の確認と次時の学習内容をどうするか | | |

（６）検証

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検証項目 | 検証の方法 | 結果 |
| 生徒個々にあった目標を設定することができたか。 | ｢個別の教育支援計画｣及び｢Ｓ－Ｍ社会生活能力検査｣を参考にしながら生徒個々の目標、支援等を確認する。 |  |
| 本時の目標を意識して指導することができたか。 | 授業者の反省（Ｔ１、Ｔ２） |  |
| 授業内容は生徒の実態に合った内容だったか。 | 授業者の反省（Ｔ１、Ｔ２）  生徒の授業中の様子から考察する。 |  |
| 前回使用したイラスト等を活用することにより、生徒が内容を再確認する事ができたか。 | 授業者の反省（Ｔ１、Ｔ２）  生徒の授業中の様子から考察する。 |  |
| SEL-8S学習プログラムを活用することで生徒の自己・他者の感情を理解する力が向上したか | 上記４項目を総合的に判断する。  生徒の変容が見られたか確認する。（授業の様子及び生徒の実態調査を参考にする） |  |

